

だ よ り
美 術 館

contents

ガラスの魔力・ガラスの魅力	[2 ~ 5]
イベント報告	[6 ~ 7]
あなたが選ぶベスト作品	[7]
お知らせ・貸館情報	[8]
近隣美術館・博物館スケジュール	[8]
日本まんなか共和国	[8]

表紙:(左) エミール・ガレ作「アプテロン形ランプ」1902~1904年 (財)北澤美術館蔵
(右)ドーム作「野薔薇文高脚杯」1897~1920年 (財)北澤美術館蔵
(下)ルネ・ラリック作 センターピース「二人のナイト」1920年 箱根ラリック美術館蔵



GALLE
DAUM
LALIQUE

ガラスの魔力・ガラスの魅力

華麗なるアール・ヌーヴォー、アール・デコの世界

10月5日(金)～11月4日(日)

福井県立美術館では、10月5日(金)から11月4日(日)まで、「ガラスの魔力・ガラスの魅力 華麗なるアール・ヌーヴォー、アール・デコの世界」が開催されます。

本展では、エミール・ガレ、ドーム兄弟、ルネ・ラリックの3者の代表的な作品約130点で、アール・ヌーヴォー、アール・デコのガラス芸術の魅惑的な美の世界を紹介します。

アール・ヌーヴォー(フランス語で新しい芸術の意)はおよそ1890年頃から1910年にかけて、フランスを中心とした欧米諸国で空前の流行を見せた装飾美術様式で、その影響は建築、ガラス、家具、宝飾品、陶器、グラフィックとあらゆる分野に及びました。これらの多彩な分野に共通していえるアール・ヌーヴォーの造形的特徴は曲線の多用でした。しかも自然を最高の師としたアール・ヌーヴォーの作家たちが採用した曲線は、図形的な曲線ではなく、植物を連想させるしなやかな有機的曲線でした。また自然に次いでその造形的特長に影響を与えたのは日本美術でした。アール・ヌーヴォーという呼称の由来となったのは、同時代の新しい美術品を扱っていたパリのサミュエル・ピングの装飾美術品の店名ですが、ピングの店では長年日本美術を扱っていたという事実からも、日本美術との関係をうかがうことができます。

アール・ヌーヴォーは、それまでの装飾デザインに見られた折衷的な歴史趣味や異国趣味による低迷状態を打ち破り、その新しさと世紀末的な華やかさが爆発的に世紀末のヨーロッパを席卷しましたが、その様な興隆をもたらした原因のひとつに万国博覧会への出品と成功があります。1889年のパリ万国博覧会で、ガレが新しいスタイルの家具やガラス製品等を発表して、国際的な評価を得た後、1893年のシカゴ万国博覧会、1900年のパリ万国博覧会と続いて大成功を収めました。この中でも特に1900年は、後発のドームも万国博覧会に出品したガラス製品でグランプリを受賞したり、フランスの代表的アール・ヌーヴォー建築家エクトール・ギマルの設計によるパリのメトロの入り口や駅舎の建設が始まった年でもあり、いわばアール・ヌーヴォーの頂点の年ともいえます。さらには1902年のトリノの万国博覧会や1897年のミュンヘン及びドレスデンでの芸術作品を主題とした国際フェアなどもアール・ヌーヴォーの国際的人気に拍車をかける重要な出来事でした。

アール・ヌーヴォーの代表的ガラス作家ガレとドーム兄弟は、ともにロレーヌ地方の中心都市ナンシーを拠点に活躍しました。ナンシーはもともとガラス産業の伝統のある地域で、彼らはナンシーのガラス職人たちをまとめ、企業としてガラス製品を生産し、ナンシー派として世界のガラス製品をリードしたのでした。

しかし、アール・ヌーヴォーのガラス芸術の名実共に象徴的存在であったガレが1904年に病で亡くなると、その勢いにも弱りがさしてきます。ガレ社は妻のアリエットに継がれ、ナンシー派の指導的役割はドーム兄弟に引き継がれましたが、アール・ヌーヴォーは、大量生産、大量消費、機械文明などの時代的要請や特徴にそぐわなくなり、急速に終焉に向かいました。

アール・ヌーヴォーの終焉に続いて現れたのがアール・デコと呼ばれる装飾様式で、欧米を中心に1910年代半ばから1930年代にかけて流行しました。アール・デコという名称は、1925年にパリで開催された「現代装飾美術・産業美術国際博覧会」(Exposition Internationale des Arts Decoratifs et Industriels modernes)の略称アール・デコ博に由来します。またそのため「1925年様式」とも呼ばれることもあります。

アール・デコ様式が影響を与えた分野は、アール・ヌーヴォーと同じく非常に広く、建築、家具、食器やガラス製品、ファッション、グラフィック、装身具などあらゆる分野に及びました。その造形的特長はアール・ヌーヴォーとは全く対照的で、直線、図形的曲線、幾何学的形態などが中心でした。またアール・ヌーヴォーが自然を讃え自然から影響を受けたのに対し、アール・デコは機械文明や工業製品を讃えました。さらにプリミティブ・アートを初めキュビズム、バウハウス、東洋美術など様々な影響のもと様式が発展しましたが、アール・ヌーヴォーほどは様式的統一をもっていませんでした。アール・ヌーヴォーが19世紀の様式だったのに対し、アール・デコは現代の文化状況にもつながる20世紀様式だったとも言えるでしょう。

フランスのアール・デコを代表するガラス作家がルネ・ラリックでした。ラリックは、先に挙げた1925年の「現代装飾美術・産業美術国際博覧会」では、ガラスで装飾したパピリオンや、15メートルのガラス製の噴水を制作しました。そしてこれが話題となり、彼の評価が確立されました。またさらに豪華客船の内装やオリエント急行の内装なども手がけ世界的名声を得ます。アール・デコ様式は、この様式を持つ最も著名な建築物クライスラービルやエンパイア・ステート・ビル(共にニューヨーク)が建った1930年頃を頂点として、20世紀前半のあらゆるデザインに世界的な影響を及ぼしましたが、第二次大戦勃発とともに衰退し、ラリックも大戦が終結する1945年に亡くなりました。

エミール・ガレ
Emile GALLE
 (1846 ~ 1904)

ガレは、1846年フランス東部のロレーヌ地方の首都ナンシーに生まれました。父のシャルル・ガレはこの地で高級ガラス器や陶磁器の販売業者をしていました。エミールは、学生時代は哲学、ラテン語、フランス語、自然科学などを学び優秀な成績を残し、卒業後ドイツに留学して、化学やガラス製造の技術を学び、帰国後は父の工場に入りデザインや製造管理を学びました。そして1877年31歳のときに父の工場を引き継ぎました。そしてその翌年には、パリ万国博覧会出品した作品で受賞し、その才能を知らしめました。70年代、80年代と、自己の様式を確立するために日本美術や象徴主義など様々な様式を試みます。またこの間、家具製造にも手を広げ、1889年のパリ万国博覧会では、ガラス部門でグランプリ、陶器部門で金賞、家具部門で銀賞を獲得し、その名声を確かなものにしました。また企業としても、多くの職人を抱え順調に工場を拡張していきました。1900年のパリ万国博覧会ではまさに博覧会の立役者として活躍し、1901年にはナンシー派の会長に就任するなど、フランスだけでなく世界を代表するガラス、陶器、家具作家として活躍しますが、1904年に白血病で亡くなりました。ガレの没後もガレ社は妻アンリエットや親族によって引き継がれますが、1931年に世界恐慌の影響で閉鎖に追い込まれました。

「美は真であり真は自然にある」というガレの言葉が表すように、ガレは自然に対してほとんど信仰に近い感情を抱いていました。そしてその象徴主義的な才能によって、純粋芸術と工芸の差を取り払い、総合的な生活芸術様式の創造を目指したのでした。



エミール・ガレ
 風景文ランプ
 1900 ~ 1931年
 財団法人北澤美術館蔵



エミール・ガレ
 蘭文花器
 1900年
 財団法人北澤美術館蔵



エミール・ガレ
 花器「恋の釣り糸」
 1889年頃
 財団法人北澤美術館蔵



エミール・ガレ
 セイヨウオキナグサ文脚付杯
 1897年頃
 財団法人北澤美術館蔵



エミール・ガレ
 水差「ギアナの森」
 1903年頃
 個人蔵

ドーム兄弟

DAUM FRERES

オーギュスト・ドーム

Auguste DAUM

(1853 ~ 1909)

アントナン・ドーム

Antonin DAUM

(1864 ~ 1930)

兄のオーギュストは1853年に、弟アントナンは1864年に、当時フランス領だったアルザス・ロレーヌ地方のビッシュという小さな町に生まれました。しかし1871年に普仏戦争でのフランスの敗北が決まると、この地方はドイツに割譲されたため、ドーム一家はナンシーに移りました。ここで父のジャン・ドームはガラス工場の経営を始めました。

その後、兄は1878年に、弟は87年に父の工場のガラス製造事業に参加し、ドーム兄弟という名称のガラス製造会社がスタートします。1889年のパリ万国博覧会ではガレと共に作品を発表し高い評価を得ます。その後徐々にナンシー派独特の自然の観察に基づいた花の装飾を取り入れ、優秀な画家や職人たちを集め、美術工芸品として水準の高いガラス製品を多数市場に送り出しました。1900年のパリ万国博覧会ではガラス部門でグランプリを獲得し、ガレと並んでアール・ヌーヴォーを代表する企業になりました。

ドーム社は、ガレ社がガレ・スタイルに固執したのと違って、それぞれの時代の流行にあわせたデザインで作品を作り続ける柔軟さを持っていたため、現在に至るまでドーム・クリスタルとして生産を続けています。



ドーム
藻魚台花形ランプ
1900年頃
財団法人北澤美術館蔵



ドーム
春草文花器
1902年頃
財団法人北澤美術館蔵



ドーム
ななかまど
1902年頃
財団法人北澤美術館蔵

ルネ・ラリック

René LALIQUE

(1860 ~ 1945)

ラリックは1860年にフランスのシャンパーニュ地方マルヌ県アイ村に生まれました。パリの装飾美術学校やイギリスで学んだ後、1882年頃から宝飾デザイナーとして活動を始め、すでに20代でパリのヴァンドーム広場にアトリエを構え、著名人を顧客に持つ宝飾デザイナーとして成功しました。また1900年のパリ万国博覧会では彼の宝飾作品が目ざされ名声を得ました。

ラリックが本格的にガラス工芸の道へと進んだのは、1908年に香水商のフランソワ・コティから香水瓶のデザインを注文されたことから始まるといわれています。この年にはガラス工場を借り受け、本格的なガラス製品の生産を始めました。

彼は1920年代に入るとガラス作家としての人気定着し、アール・デコの名称のもとになった1925年の「現代装飾美術・産業美術国際博覧会」では、ガラスで装飾したバビリオンや、15メートルのガラス製の噴水を制作し、大きな話題を呼びガラス作家として彼の評価が確立されました。またさらに「イル＝ド＝フランス号」や「ノルマンディー号」などの豪華客船の内装やオリエント急行の内装なども手がけ世界的名声を得ました。

彼は、透明ガラスや乳白色ガラスを使い、昆虫や動物だけでなく特に人体を使ったシンプルなデザインで知られ、多くの作品を残し1945年に亡くなりました。ラリック社は経営者は変わりましたが、現在も生産を続けています。



ルネ・ラリック
香水瓶「彼女たちの魂」
1913年
箱根ラリック美術館蔵



ルネ・ラリック
花器「つむじ風」
1926年
箱根ラリック美術館蔵



ルネ・ラリック
カーマスコット「勝利の女神」
1928年
箱根ラリック美術館蔵



ルネ・ラリック
ベッドサイドランプ「アムール」
1920年
箱根ラリック美術館蔵



ルネ・ラリック
彫像「ガラテ」
1924年
箱根ラリック美術館蔵

夏休み子どもむけ企画

あそびにおいでよ！ 動物ファンタジーへ

ポーランドの絵本画家
ヨゼフ・ウィルコンの世界

会期：2007年8月3日(金)～8月26日(日)

今回の展覧会では、地域のボランティアや福井県立美術館ボランティアの会、そして福井大学の学生の協力を得て、多くの関連イベントが開催されました。関係者の方々に深く感謝するとともに、それらの関連イベントをご紹介します。



8月3日の参加者(午後9時頃)



8月4日の参加者(午後6時頃)

ナイトミュージアム体験 ～ドキドキ 夜の美術館～

協力：福井大学、福井県立美術館
ボランティアの会
ダンス指導：明宝ダンススクール
苅谷さつき
音楽指導：山下義久

8月3日(金) 午後8時～9時
8月4日(土) 午後5時～6時

閉館した夜の美術館を探検するイベント「ナイトミュージアム体験」では、普段敷居が高いと思われるがちな美術館に親んでもらうために企画したものです。福井大学の学生をはじめとした、このイベントの関係者に終了直後の感想をインタビューしました。

福井大学の学生

奥平あゆみ(サンパ隊リーダー)
子どもたちも保護者も一緒になって踊れて、私自身も楽しく踊れました。
徳山五月(音楽隊リーダー)
音楽だけでは成り立たないし、踊りだけでは寂しいし、案内してくれる人がい

て、みんなが合わさったとき1つものになれて、来てくれたお友達も笑って一緒に踊ってくれたので楽しかったです。

裕知晴(案内人リーダー)

子どもたちの笑顔がとても印象的でした。普段、入ることのできない閉館後の美術館に、子どもたちの笑顔があり、それを見守る保護者の方たちの暖かい笑顔があり、やってよかったと思いました。

学生にダンスと音楽を 指導した講師の先生たち

苅谷さつき先生(ダンス指導)



とても楽しいイベントでした。今回初めての美術館での踊りであり、初チャレンジに参加できて良かったです。

学生の方が一生懸命やっていて、彼らに関わるなかで、心が通じ合えたように気がしました。

山下義久先生(音楽指導)

大学生が力を発揮して、楽しみながらやっていたのが良かったです。一日目が終わった後、問題があったところを自分達でとことん話し合って問題解決しようとしていたのはとても素晴らしいことです。若いうちはどんどん話し合っ、力

を發揮していくことが大切で、そういう場所を与えられたのは、彼らにとって貴重な経験になったと思います。

福井県立美術館ボランティアの会

佐藤桂子

(福井県立美術館ボランティアの会代表)

お客様と一緒に、貴重な体験をさせて頂きました。昼間の現実と夜のファンタジー。真夏の最中にクリスマスの部屋(アンティークの店)を完成させた時の感動は、年齢や性別、夏と冬を超越させる「ゴージャス」そして「美」でありました。この体験は今後のボランティア活動を一層充実させるとともに大革命が起きるのではないのでしょうか。



華やかなサンパをリードするのは明宝ダンススクールの苅谷先生と生徒さんたち。福大音楽隊も大活躍。



ボランティアの会とたわら屋の学生によるアンティークのお店



福大生入魂の廊下の飾りつけ



ボランティアの会とたわら屋の学生の協力でのインフォメーションをお菓子屋さん様に模様替え。

小さな小さな音楽会

協力：福井大学 他

8月11日(土) 午後2時～3時

8月18日(土) 午後2時～3時



福井大学院生と福井室内管弦楽団の皆さんの魅惑の三重奏。(8/11)



福井大学生を中心メンバーとする4人の、歌あり、演奏あり、漫才あり?の楽しいひと時。(8/18)



ぼくもわたしも 動物ファンタジー音楽隊

協力：福井大学

講師：福井大学教授 橋本龍雄

8月25日(土) 午後2時～3時

8月26日(日) 午後2時～3時



展示会場の動物たちの中で行われ、みんなで物語の世界に入り込んだり、演奏者を取り囲んだり、まったく新しい体験型音楽会。

みんなでつくろう！ 森の小鳥たち

会期中毎日



来館者の描いた小鳥で埋め尽くされたこのお部屋の壁は、福井県立美術館ボランティアの会の皆さんに石膏で塗ってもらった労作。

このほか
絵本の読みきかせや
ピアノ演奏会などが
ありました。



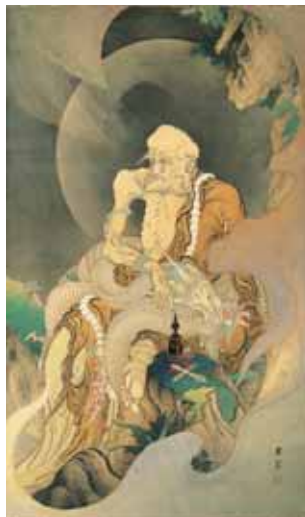
あなたが選ぶ ベスト 作品

開館30周年記念「福井県立美術館 館蔵名品展」では、作品の分野ごとに人気投票を行いました。先日終了した後期展(8月3日～8月26日)での結果は、以下となりました。あなたが投票した作品はありましたか？

なお結果の詳細は、当館ホームページにて紹介しています。



【日本画】岩佐源兵衛勝重「群鶴図」



【日本画】狩野芳崖「伏龍羅漢図」



【日本画】横山操「金門橋」



【工芸】楠部彌弐「彩挺春日香炉」

分野	得票数	作家名	作品名
日本画	191	横山操	金門橋
	135	岩佐源兵衛勝重	群鶴図
	104	狩野芳崖	伏龍羅漢図
工芸	229	楠部彌弐	彩挺春日香炉
	82	木村盛和	鉄袖変班天目(壺)
	70	加藤唐九郎	志野茶碗 銘 苔屋

< 10月～2008年2月の休館日について >

10月1～4・15・29日 11月5～7・12～15・26～29日 12月17・29～31日 2008年 1月1・2・15～18日
2月4・18・25～28日 は、展示替え、館内メンテナンス等のため、休館とさせていただきますのでご了承ください。

貸館情報 [10/5～2/24]

10/ 5～10/ 7	第40回記念 福井県学生書道展	11/ 8～11/11	第18回福井県高等学校総合文化祭 美術、書道、写真、盲・ろう・養護学校作品展	1/12～ 1/14	千葉半産展
10/ 5～10/ 8	第41回日本画美学会展	11/30～12/ 2	第37回若越書道会展	1/12～ 1/14	書勢会会員展・学童読書展
10/10～10/14	第5回夢美の会&グループY-Wai合同展	12/ 6～12/ 9	第57回福井県勤労者美術展	1/25～ 1/27	第55回福井奎星書展 会員展・公募展
10/10～10/14	第10回フォトグループ・アイ写真展	12/ 6～12/ 9	全国大学・高专卒業設計展示会	1/28～ 2/ 3	池田町「農村力」ギャラリー
10/17～10/21	Spring アート展	12/ 6～12/ 9	第21回新彫会彫刻展	2/ 1～ 2/ 3	洗心書道展
10/17～10/21	「第2回絵遊会」作品展	12/11～12/16	第20回美浜美術展	2/ 8～ 2/10	福井工業大学建設工学科建築学専攻卒業研究展
10/23～10/28	第9回絵画グループ 樹」作品展	12/12～12/16	第26回映彩会水彩画展	2/ 9～ 2/10	科学技術高校テキスタイルデザイン科卒業制作展
10/25～10/28	絵画グループ ye-ye 4人展	12/12～12/16	第70回くらしの墨画展	2/11～ 2/16	静と動 修三・千代美・悠・3人展
11/ 1～11/ 4	～こだわりのさをり～ 片山敬介展	12/13～12/16	第57回福井書法展	2/13～ 2/17	福井大学教育地域科学部美術教育 サブコース卒業・修了制作展
11/ 1～11/ 4	第3回栄田美重子パッチワークキルト 教室作品展	12/22～12/25	第35回一書会展	2/22～ 2/24	第28回日本墨書会展
		1/ 4～ 1/ 6	津田幸男 詩・水彩画展	2/22～ 2/24	福井高等学校芸術科アートデザインコース卒業制作展
		1/ 4～ 1/10			

FUKUI

近隣美術館・博物館スケジュール

福井市立郷土歴史博物館

福井県福井市宝永3丁目12-1 E-mail: history@museum.city.fukui.fukui.jp
休館日:10月は無休、11月5日(月)6日(火)

平成19年秋季特別陳列 「越前山縣家と武田信玄」

9月8日(土)～11月4日(日)

観覧料 210円(平常展示観覧料でございました)

福井市美術館 アートラボふくい]

福井市下馬3-1111 TEL.0776-33-2990
休館日:10月9日(火)15日(月)22日(月)29日(月)

『異邦人たちの夢 エコール・ド・パリとパリを描いた日本人』展

10月2日(火)～11月4日(日)

一般 1,000円 / 大高生 500円 / 小中生 200円

広
報
板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田橋大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

天体と宇宙の美学

10月6日(土)～11月18日(日)



ジョゼフ・コーネル「シャボン玉セット(月の虹) 扉面のオブジェ」
1950年代 滋賀県立近代美術館蔵

この展覧会は、近現代美術を中心に、太陽と月、惑星や恒星、銀河などの天体と宇宙を主題にした美術作品を、絵画、水彩、版画、写真、立体作品など、さまざまな分野から選び、芸術家が、天体や宇宙をどのように思い描き、作品の中にどのような夢を託してきたのか、天文学からいかなる影響を受けてきたのかなど、人間と天体、人間と宇宙の関わりを美術品約150点の中に探ります。

一般 900(700)円 / 大高生 540(500)円 / 小中生 450(350)円
()内は20名以上の団体料金

ウィリアム・メレル・ヴォーリス展

2月9日(土)～3月30日(日)

アメリカに生まれ、近江八幡に活動の拠点を置いた建築家ヴォーリス(1880～1964)。建築をとおして理想の生活を築こうとした彼の活動と思想の系譜を紹介します。

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

開館25周年記念展
人間国宝 荒川豊蔵
9月8日(土)～11月4日(日)



荒川豊蔵「志野筒絵茶碗 銘陸峰」
昭和36年 豊蔵資料館蔵

荒川豊蔵は、美濃を代表する陶芸家のひとりです。志野や瀬戸黒、黄瀬戸の復興に生涯を費やし、昭和30年には第1回の重要無形文化財技術保持者(人間国宝)に認定されました。豊蔵の志野や瀬戸黒を彼が模範とした古陶磁とともに展示。さらには、染付や赤絵、萩、備前、丹波、唐津や書画、収集品まで幅広く集め、豊蔵芸術の多彩な全貌を明らかにします。

一般 1,000(900)円 / 大学生 800(700)円 / 高校生以下は無料
()内は20名以上の団体料金
前売りは上記個人料金から200円引き

開館25周年記念 大ナポレオン展

11月16日(金)～12月26日(水)

一般 1,000円 / 大学生 700円 / 小学生、中学生、高校生無料
20名以上の団体は上記料金より100円引き
前売りは上記個人料金から200円引き

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

日本彫刻の近代展

9月26日(水)～11月4日(日)

明治初期から1960年代頃までの日本彫刻の展開と彫刻芸術の魅力を選びすぐの作品約90点を通して紹介します。



橋本平八
《花籠に遊ぶ天女》
1930年

一般 900(700)円 / 大高生 700(500)円 / 小中生 500(300)円
()内は20名以上の団体割引及び前売料金

コレクション展 Part2 -
近代美術家・数珠つなぎ展

2007年11月13日(火)～12月24日(月)

三重県立美術館が収集してきたコレクションを、作家間の交友関係に着目しながら構成、エピソードも交えて紹介していきます。

一般=500(400)円 / 高・大生=400(300)円 / 小・中生=無料

三重の子どもたち展

2008年1月8日(火)～2月3日(日)

三重県内各地の3歳児から中学生までの子どもたちの造形作品を展示し、三重の子どもたちが日常行っている創作活動を紹介していきます。
[観覧料]=無料